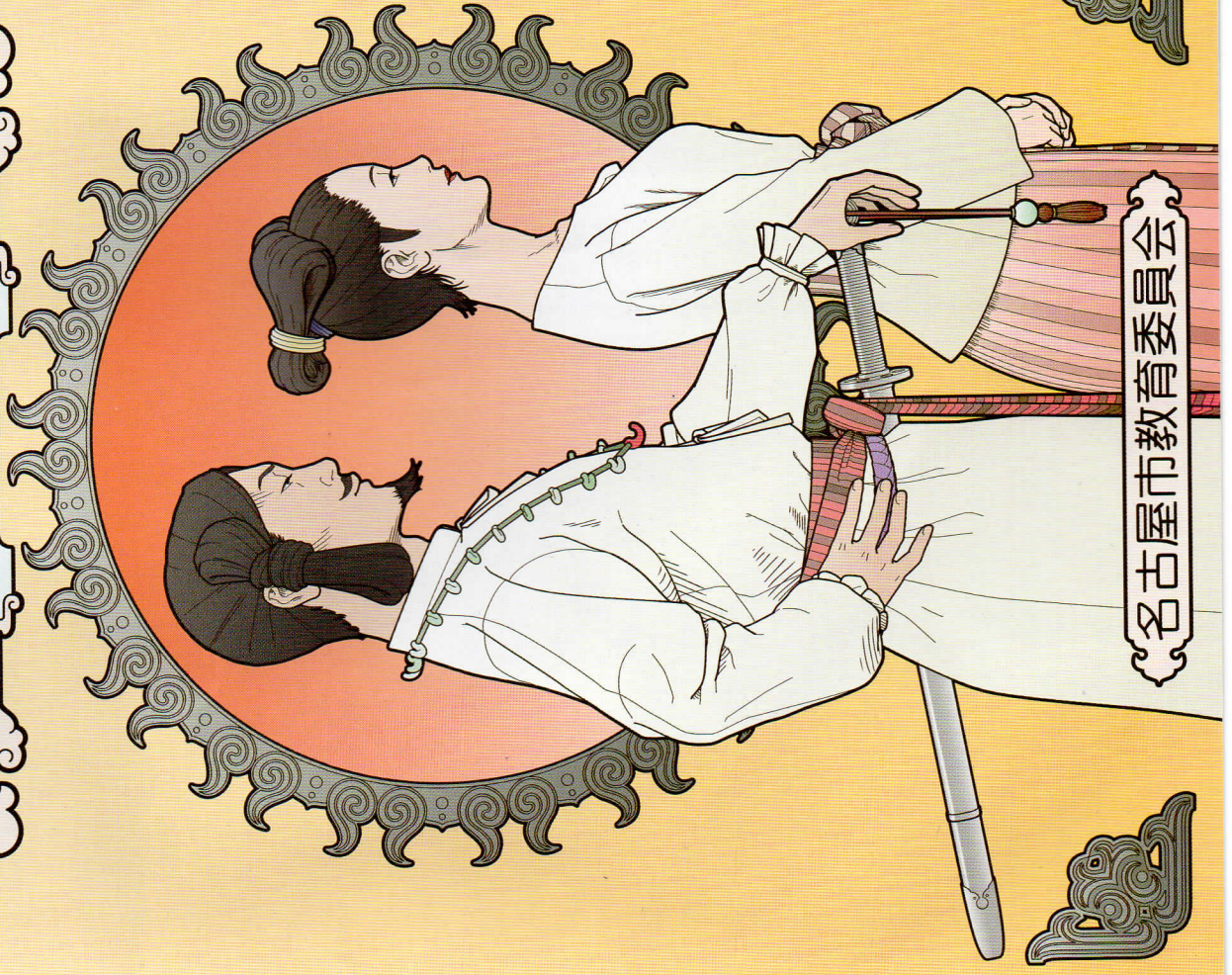


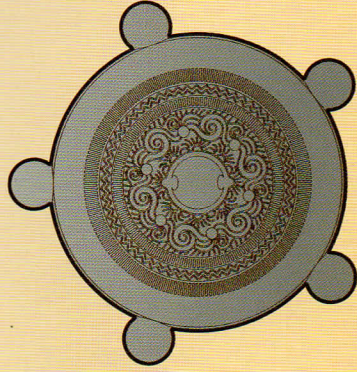
歴史の里

志段味古墳群

まるわかりガイド



名古屋市教育委員会



歴史の里

志段味古墳群

名古屋公式ウェブサイト 歴史の里

検索

名古屋教育委員会文化財保護室 TEL052-972-3268 FAX052-972-4176

このパンフレットは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

平成 23 年 1 月発行

歴史の里をめぐり、
古代の風を感じてみよう！

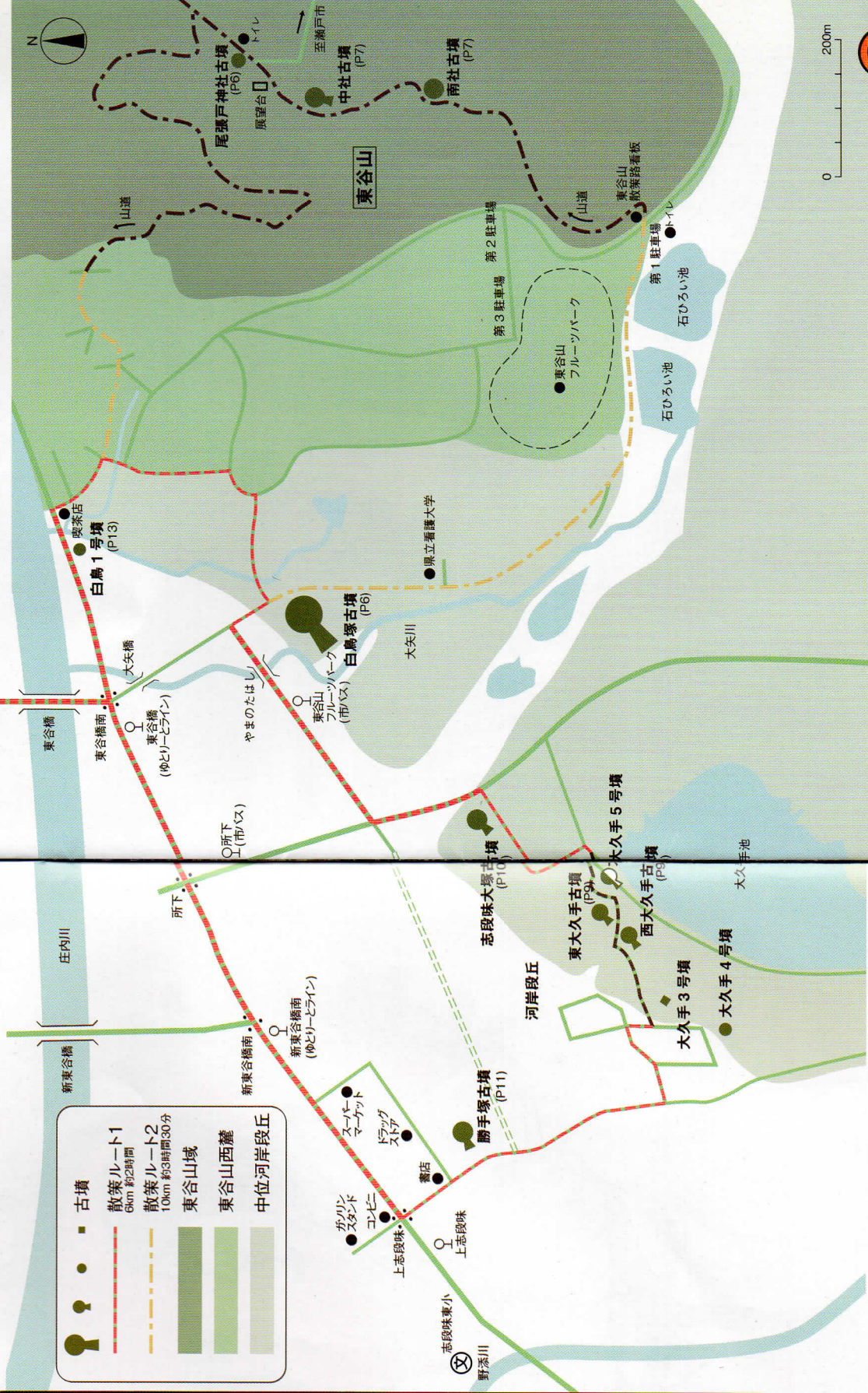
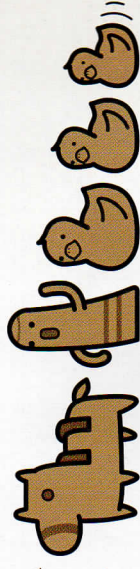
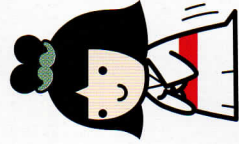
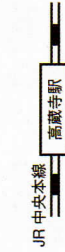
- 交通ルールを守り安全に歩きましょう。
- コース以外の山や畑（私有地）などに入らないようにしましょう。

今からおよそ1300年
以上昔の東谷山とその周
辺の様子を想像してみま
しょう。

一段高い河岸段丘上に
並ぶ幾つかの古墳や、ひ
とときわ巨大な白鳥塚古墳、
そして、山頂にある三つ
の古墳。川沿いなど低い
場所で生活し、往来した
人々はこれらをどのよう
に見ていたのでしょうか。

その昔、古墳はどのよ
うな姿をしていたのか、
遠くから見るとどのよう
に見えたのか、また、古
墳からの眺めはどうだっ
たのか。このガイドブッ
クを手に古代の人々の思
いを想像しながら歩いて
みましょう。

	古墳
	散策ルート1 6km 約2時間
	散策ルート2 10km 約3時間30分
	東谷山域
	東谷山西麓
	中位河岸段丘



0 200m

古墳ってなに!?

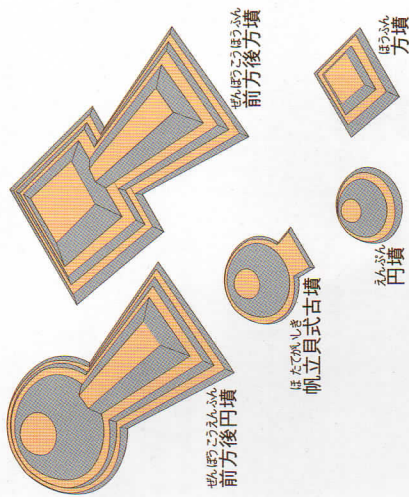
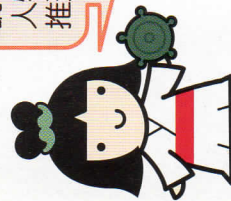
古墳は、単に古い墓のことではなく、3 世紀中頃から 7 世紀末頃まで、日本の多くの地域でつくられた特別な墓のことです。

現在、多くの古墳には木々が生い茂っていますが、つくられた当時は色々な形があり、段をつけて土盛をし、斜面に石を置き、まわりに埴輪を並べました。墳丘の中に、室をつくり、棺をおさめ、棺の内外に鏡や武器などの副葬品を置きました。

古墳時代の人々は、古墳をつくるために、当時の最先端の技術を使い、多くの労力を費やしました。

古墳には人々の思いがこめられているのです。

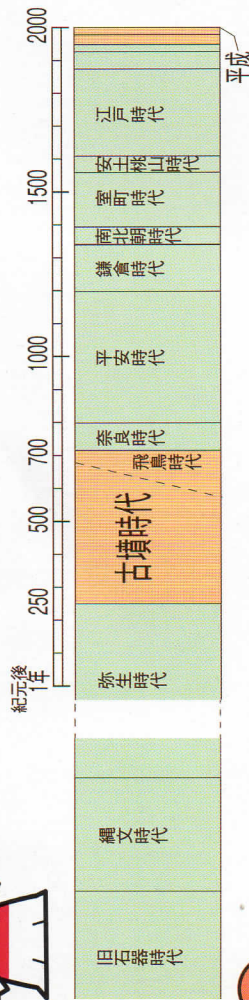
古墳の大きさや形、出土品を調べていくことで、葬られた人物の人となりや交流の様子を推理することができるようだよ



古墳の形いろいろ



五鈴鏡 (複製) (志段味大塚古墳出土)
名古屋博物館 (原品京都大学総合博物館)



なかやしろ
中社古墳発掘調査状況
古墳の墳丘裾の円筒埴輪の列や
重石の様子がよくわかります。
巨石は後世に転落してきたもの。

4 世紀 山の王墓

白鳥塚古墳・尾張戸神社古墳・中社古墳・南社古墳

志段味古墳群で最初に古墳がつくられたのは、東谷山の山頂とその麓です。

4 世紀中頃に山麓につくられた白鳥塚古墳は、県内でも屈指の大きさを誇る大古墳です。山頂の尾張戸神社古墳も同じ頃につくられました。
中社古墳と南社古墳から出土した円筒埴輪は、形や三角の孔をもつことから尾張で最古段階のもので、当時の王権の影響を強く受けたものです。



白鳥塚古墳の石英

白鳥塚古墳 (国史跡)

前方後円墳 墳丘長115m

出土物: 須恵器(後世のもの)

発掘調査によって、葺石を重厚に積むこと、葺石の所々に石英を混ぜること、周濠や渡土手があることなど、古墳の姿が明らかになりました。

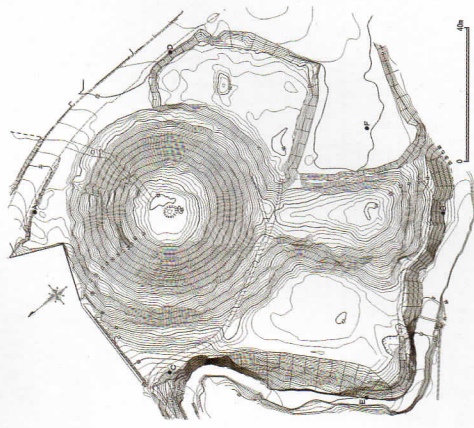
尾張戸神社古墳

円墳 直径27.5m

出土物: 山茶碗(後世のもの)

古墳の形には諸説ありましたが、発掘調査の結果、円墳であることがわかりました。

古墳の上に建つ尾張戸神社は、縁起に古代豪族である尾張氏の祖先系譜を伝え、尾張氏と深い関係をもつ神社です。



白鳥塚古墳測量図

しだみ物語

白鳥塚古墳の主は、人やモノが行きかう庄内川をおさえた王であつた。王は、流通を取り仕切った権勢を誇るかのように巨大な前方後円墳を記念碑としてつくらせた。時のヤマトの王と同じ形の前方後円墳である。

この王に協力した尾張戸神社古墳の主は、東谷山の頂上に古墳をつくり、始祖神として拝められた。次代の王たちも、ヤマトの王権から工人を雇い、埴輪で飾った古墳を東谷山につくらせた。人々は汗を流しながら山を削り、土を盛り、埴輪や石を運んだ。出来上がった古墳を、王たちの見上げながら、王たちの偉業を感じ、この地の繁栄を信じた。

「しだみ物語」は調査の情報を元に創作したものです

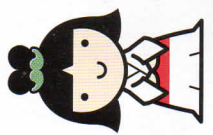
中社古墳

前方後円墳

墳丘長63.5m

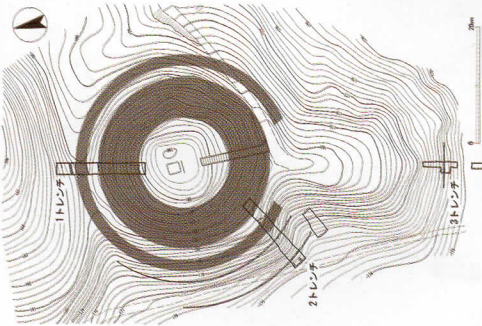
出土物: 埴輪

発掘調査で、後円部端の谷間から、埴輪列がほぼ設置されたままの状態出土しました。この埴輪は、その形や△の孔があることなどから、尾張でも最古段階の円筒埴輪とわかりました。



葺石には麓に多い丸い石を使っているよ。麓から山頂まで運び上げたんだね。

中社古墳測量図



南社古墳

円墳 直径30m

出土物: 埴輪
前方後円墳とする説もありましたが、調査の結果、円墳であることが明らかとなりました。



上:南社古墳発掘調査
下:埴輪列(中社古墳出土)



5世紀 段丘の古墳群

おおくてこふんぐん 大久手古墳群（西大久手古墳、東大久手古墳）

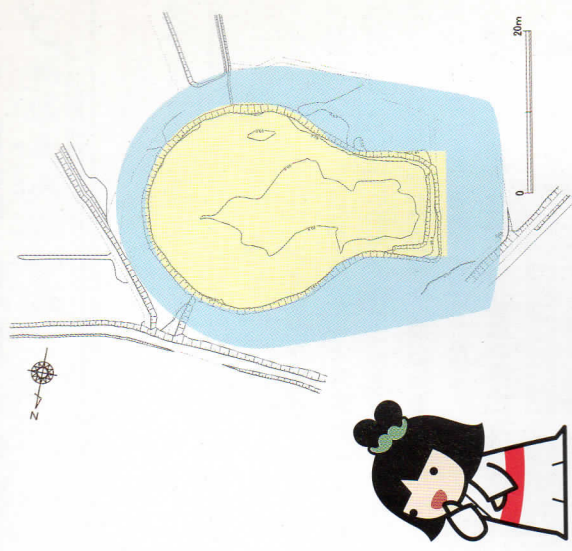
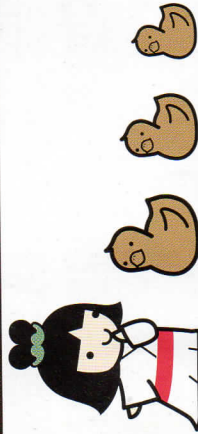
古墳時代中期（5世紀）には、大久手池周辺の河岸段丘上に古墳がつくられました。前方後円墳の前方が短い帆立貝式古墳が集中することが大きな特徴です。

帆立貝式古墳は、西大久手古墳、志段味大塚古墳、大久手5号墳、東大久手古墳と順につくられ、河岸段丘を下がり少し離れた勝手塚古墳へと続きます。また、大久手古墳群には小さな円墳や方墳もあり、多様な古墳がみられます。

これらの古墳は墳丘が削られています。発掘調査により古墳の形や周濠がわかり、円筒埴輪のほか、馬形・鳥形・人物など多種多様な埴輪も出土しています。



鶏形埴輪(西大久手古墳出土)



人物埴輪(西大久手古墳出土)

東大久手古墳

帆立貝式古墳 墳丘長36m 出土物: 埴輪、須恵器

墳丘の土盛は長い年月の中で削られてしまいましたが、今も周濠の跡が地表に残っています。最近の調査で出土した人や馬形の埴輪は、この地域では最も古く、当時の近畿の最新の文化を取り入れたものであることがわかりました。



円筒埴輪(東大久手古墳出土)

東大久手古墳

帆立貝式古墳 墳丘長38m

出土物: 埴輪、須恵器

墳丘の土盛りの大半は削られていますが、後円部の一段目の埴輪は、築造当時の場所で残っていました。円筒埴輪は「尾張型埴輪」と呼ばれる、この頃尾張全域でよく使われたものです。

5 世紀 武 装 する 王

志 段 味 大 塚 古 墳

志段味大塚古墳

帆立貝式古墳 墳丘長55m

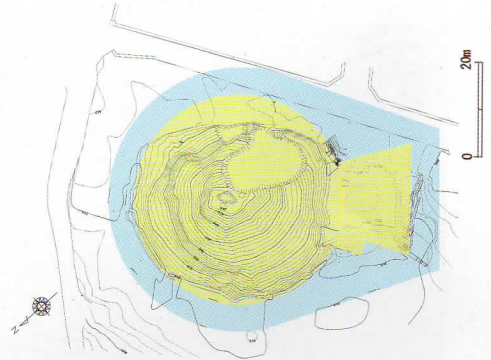
出土物: 五鈴鏡、馬具、甲片(小札)、鉄鏃、刀片、帶金具
革盾片、埴輪、須恵器

大正12年に地元の人も京都大学梅原末治氏によって発掘が行われ、五鈴鏡や馬具、甲や武器など重要な遺物が出土したことから、5世紀後半の代表的な古墳として全国的にも知られるようになりました。最近の調査では、別の埋葬施設が見つかり、革盾も発見されました。

周濠からは、水鳥や鶏などの埴輪も出土しています。



水鳥形埴輪(志段味大塚古墳出土)



志段味大塚古墳出土品 京都大学総合博物館蔵 愛知県歴史編さん室提供

勝手塚古墳

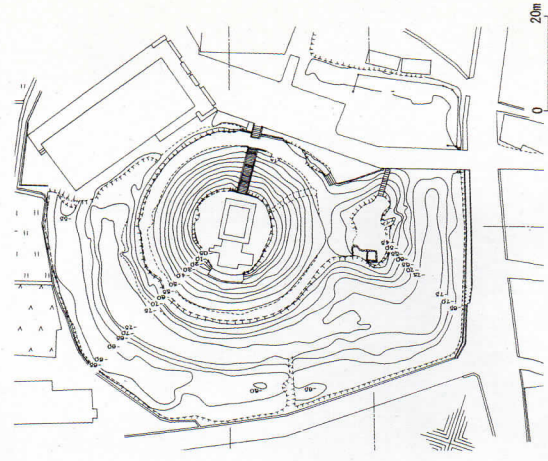
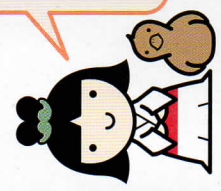
勝手塚古墳

帆立貝式古墳 墳丘長53m

出土物: 埴輪

勝手塚古墳は、墳丘の高まりだけでなく、周濠や周堤も残り、現在もつくられた当時の様子がよくわかります。出土した円筒埴輪は、5世紀末から6世紀初め頃のもので、この頃尾張全域で使用された「尾張型埴輪」です。

古墳の形がよくわかるので、今は削られてしまった大久手古墳群にある帆立貝式古墳をイメージする手助けになるよ。



勝手塚古墳測量図



埴輪列(勝手塚古墳出土)

しだみ物語

志段味大塚古墳の王は、甲や刀を身につけ、馬にまたがり、戦いに赴いた。この頃は、海外の文化が次々と入ってきた時代であった。王は、近畿の王たちと直接交流をもち、最新の文物を手に入れた。この時代にはじめて日本にもたらされた馬は、最新の乗り物であり、人々はその力強さを驚きの目で見だ。歴代の王が武をもつて活躍し、特別な形の墓を造った。集落にほど近い河岸段丘のうえにつくられた「帆立貝式古墳」である。勝手塚古墳の王が活躍した頃には、尾張全域を尾張氏が支配し、ヤマト王権の外威として権勢をふるった。この地の王もその二翼を担ったのである。

「しだみ物語」は調査の情報を元に制作したものです



6世紀から7世紀に東谷山山麓で40基をこえる小型の円墳がつくられました。そのほとんどが横穴式石室を埋葬施設としています。こうした古墳群を群集墳といい、東谷山古墳群は尾張でも最大規模の群集墳です。

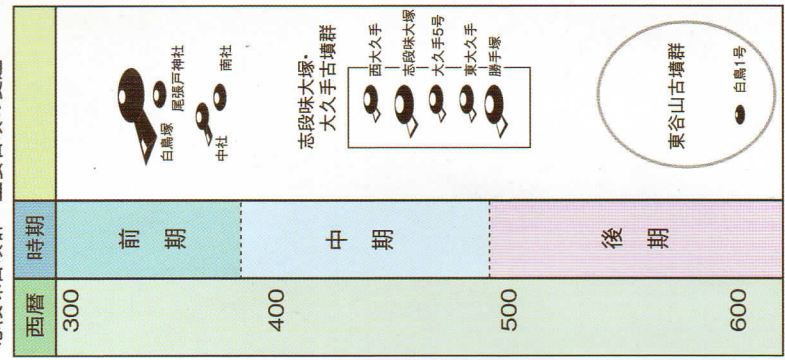
横穴式石室は、石積みなどによる封鎖を除くことで、何度も出入りできました。人々は、闇の中で蛆うじわく風景を見たことでしょうか。それはまさに「黄泉の国」を思い起こさせるものでした。

志段味付近では、縄文時代の土器や石鍬そくなどが拾われ、古くから人々が生活していたことがわかっています。弥生時代、古墳時代の集落は今のところ見つかっていません。

しかし、4世紀中頃から後半にかけて、典型的な前期の前方後円墳である白鳥塚古墳などの古墳が山頂、山麓につくられ、しばらくの空白期間をあけた5世紀中頃には、段丘上に帆立貝式古墳や円墳、方墳からなる古墳群が形成されました。

さらに、6世紀から7世紀には東谷山山麓に群集墳が形成されます。

一時の空白はありますが、約300年にわたり古墳がつくりつづけられたのです。



しだみ物語

しだみの地名の由来は、東谷山の水のしたたるところと伝えられ、人々はこの山を東の境界として神聖視してきた。

白鳥塚古墳や志段味大塚古墳の主な古墳時代の流通網であった庄内川を采配する王としてこの地で権力をもった。こうした王たちの時代は古墳時代の終わりとともに終焉した。古墳という記念碑は、草木が生い茂り忘れられていった。

いつ頃から古墳に散らばる白石英をみた人々は、白鳥を想像して「白鳥塚」と呼ぶようになった。ほかの古墳もいづつかは土地利用の中で消えていきながら、人々の生活の傍らで、時に信仰の対象となりながら、今までひっそりと残ってきた。

「しだみ物語」は調査の情報を元に創作したものです

左：白鳥1号墳（市指定史跡）

円墳 直径約17m

出土物：馬具、直刀片、刀子片、須恵器

横穴式石室は長さ7.4mで、奥壁・側壁とも比較的小さい石を積み上げています。完全な形で残る市内で唯一の横穴式石室です。

壹、せまい範囲の中に、古墳時代を通じて、それぞれの時期の特徴をもった古墳が築かれています。

貳、古墳の形も、前方後円墳だけでなく、帆立貝式古墳、円墳、方墳とバラエティに富んでいます。

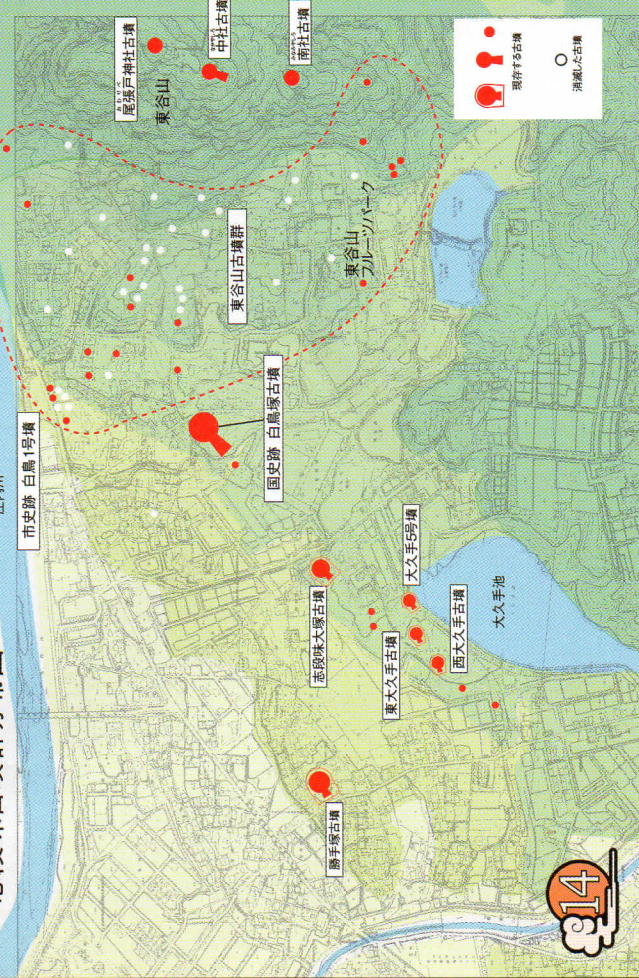
参、それぞれの古墳が東谷山山頂、山麓、河岸段丘というこの地の地形をいかしてつくられています。

このように、時期・形・立地など多様な古墳の特徴を見ることができ志段味古墳群は、日本の古墳時代の縮図であるといえます。



1日で歩ける範囲でこれだけ多様な古墳をみることができ古墳群は、全国でも珍しいんだよ！

志段味古墳群分布図



志段味古墳群は名古屋だけでなく、尾張、さらには日本の古墳時代を知るうえで重要な古墳群であることが、これまでの調査によって明らかになってきました。しかし、未解明のなぞもまだまだ残されています。これらのなぞは、これからの調査や研究によって、しだいにわかっていくことでしょう。

名古屋市内では開発の中で多くの古墳が失われてきました。その中で、志段味古墳群は市内に残された唯一の古墳群と言ってもよいでしょう。

名古屋市では古の人々が残してくれたこの貴重な志段味古墳群を、「歴史の里」として皆さんに親しまれるよう整備し、今後大切に保存していきたいと考えています。



志段味大塚・大久手古墳群地区
想像イメージ